

新約聖書の中の奥義 第7回

□この学び全体のアウトライン

第一部 イン트로ダクション

第二部 奥義としての神の国

第三部 教会に関する5つの奥義

第四部 イスラエルが頑なになることに関連する奥義

第五部 サタンの2つの奥義 と それを打ち破る神の8番目の奥義

□ 第三部「教会に関する5つの奥義」のアウトライン

A) 七つの星と七つの金の燭台の奥義

B) からだの奥義

C) 内住のメシアの奥義

D) メシアの花嫁としての教会についての奥義

E) 信者の変換の奥義

□本日の内容 「C) 内住のメシアの奥義」のアウトライン

- | | |
|-----------------|----------------------------|
| 1. パウロの喜び | コロ 1 : 24 |
| 2. 奥義の管理者 | コロ 1 : 25~26 |
| 3. 内住のメシアの奥義 | コロ 1 : 27 |
| 4. このキリストを宣べ伝える | コロ 1 : 28~29 |
| 5. 栄光の望み | コロ 2 : 1~7、9~10、3 : 3、4、11 |

6 ページから 9 ページまでは、参考資料：メシアの現在の働き

■本日の要点

1. 内住のメシアの奥義とは、メシアが、すなわち神の第二位格である子なる神が、信者の内に住んでくださるという事実を指す。
2. 神の第三位格である聖霊なる神が信者の内に住むということは、奥義ではない。そのことは、旧約聖書の中でも知られていた。
3. 旧約聖書は、メシアについての多くの預言をもっていた。しかし、メシアが信者の中に住むということは、明らかにされていなかった。メシアの内住は、新約聖書において初めて啓示された。

B) 内住のメシアの奥義

1. **パウロの喜び** コロ 1:24 「今、私は、あなたがたのために受ける苦しみを喜びと
しています。私は、キリストのからだ、すなわち教会のために、自分の身をもって、
キリストの苦しみの欠けたところを満たしているのです。」
 - (1) パウロは喜んでいいる。なぜなら、パウロはこの手紙を宛てている異邦人たちのた
めに苦しみを受けているからである。
 - (2) パウロは知っていた。彼が苦しみを受けるのは、キリストのからだ、すなわち教
会のためである。
 - (3) 「からだ」とは、ユダヤ人信者と異邦人信者とから成る教会である。これは、前
回、エペソ人への手紙から学んだ「からだの奥義」の内容である。
 - (4) コロサイ人への手紙では、パウロは、教会に関する別の奥義を明らかにする。そ
れが、本日扱う「内住のメシアの奥義」(27節)である。

2. **奥義の管理者** コロ 1:25~26 「私は神から委ねられた務めにしたがって、教会に
仕える者となりました。あなたがたに神のことばを、すなわち、世々の昔から多くの
世代にわたって隠されてきて、今は神の聖徒たちに明らかにされた奥義を、余すところ
なく伝えるためです。」
 - (1) 25節は、日本語訳では省略されているが、「そのために」ということばで始まる、
「そのために」、これは、24節の「教会のために」を指している。パウロは、教会
のために、ある使命を与えられた。その使命について25節が語る。
 - (2) 25節(直訳)「私は(奥義の)管理者とされた、(それは何に基づくかと言うと)
神のディスペンセーションにしたがって」
 - ① 日本語訳で「神から委ねられた務め」と訳されている部分は、原文を直訳す
ると「神のギオイコノミア(英語では、ディスペンセーション)」
 - ② オイコノミアとは、計画をもって配分すること。神は人類の歴史を幾つかの
時代に分け、それぞれの時代に役割を担うべき人を立て、彼らにその役割に
応じた啓示を与えてきた。
 - ③ イエスの十字架・復活・昇天、そして聖霊降臨をもって、時代は、「律法のデ
イスペンセーション」から、「恵みのディスペンセーション」に移った。
 - ④ 恵みのディスペンセーションにおいて、神から与えられた役割を担い、神の
啓示を受け取ったのは、使徒パウロである。
 - ⑤ 今、私たちは、恵みのディスペンセーションの時代に生きている。この時代
に生きる人々の責任は、神からの恵みの賜物を受け取るかどうか、である。
その恵みの賜物とは、イエスをメシアとして信じることで神の前に義人とし
て認められるということである。その恵みの賜物を受け取るかどうか、これ
は人生において唯一価値のある決断である。
 - ⑥ 25節の「神のディスペンセーション」は、パウロに使命を与えた時代である
から、「恵みのディスペンセーション」(エペソ3:2)である。
 - (3) パウロが教会のために与えられた使命とは、何か。日本語訳では25節の最後と26

節の最後に、次のようにある。「あなたがたに神のことばを、・・・余すところなく伝えるためです」。

- ① 「あなたがたに」とは、異邦人を指す。
- ② 「神のことばを余すところなく伝えるためです」という部分は、原文を直訳すると、「神のことばを成就することです」。
 - 「神のことば」とは、パウロに啓示された「奥義」を指す。
 - 「神のことばを成就する」とは、啓示された奥義のとおりになる、ということである。
 - その奥義とは何か、奥義の内容は 27 節で語られる。

(4) 奥義の内容に入る前に、26 節で、パウロは「奥義」の意味について語る。

- ① パウロは、二つの時期、昔と今とを比較する。まず、「昔」は「多くの世代にわたって隠されてきて」、次に、「今」は「神の聖徒たちに明らかにされた」、これが奥義である。
- ② 言い換えると、旧約聖書では明らかにされていなかったが、新約聖書において初めて啓示されたこと、これが奥義である。
- ③ 「神の聖徒たち」とは、ユダヤ人信者を指す。奥義はユダヤ人信者に、その中でも「キリストの聖なる使徒たちと預言者たちに」（エペソ 3:5）、啓示された。

(5) 【まとめ】25～26 節を直訳すると、次のようになる。「教会のために、私は（奥義の）管理者とされました。それは、神の（恵みの）ディスペンセーションに従ってのことであり、その使命の内容は、あなたがた異邦人について、神のことば、すなわち奥義を成就することです。奥義とは、昔は多くの世代にわたって隠されてきて、今は神の聖徒たちに明らかにされたことです。」

3. **内住のメシアの奥義** コロ 1:27 「この奥義が異邦人の間でどれほど栄光に富んだものであるか、神は聖徒たちに知らせたいと思われました。この奥義とは、あなたがたの中におられるキリスト、栄光の望みのことです。」

- (1) パウロは、いよいよ、奥義の内容について語る。
- (2) 奥義の内容は、下線部。その原文をその語順のとおり直訳すると、「キリスト・あなたがたの中における、(すなわち) 栄光の望み」
 - ① キリスト（メシア）が今やすべての信者一人ひとりの内に住んでくださるということは、旧約聖書では啓示されていなかった奥義である。
 - ② 聖霊、すなわち神の霊が信者の内に住んでくださることは、旧約聖書でも知られていたことであり、奥義ではない。
 - ヨシュア 民 27:18
 - ダニエル ダニ 6:3
 - 旧約聖書時代の預言者たち 1 ペテロ 1:10～11 （ペテロは、聖霊のことを「キリストの御霊」と呼んでいる。聖霊は、メシアによって遣わされるからである）
 - メシアの王国における信者たち エゼ 36:27、37:14

- ③ 旧約聖書にはメシアの来臨について多くの預言が記されている。メシアがどういうお方か、メシアが告げるメッセージはどのようなものか、そしてメシアはどのようなことをなさるのか（メシアのプログラム）、そういったことが詳しく預言されていた。しかし、メシアが信者の内に住むということは、明らかにされていなかった。
- ④ メシアが信者の内に住むということは、まず福音書の中で、イエスが約束した
- 「その日には、わたしが父のうちに、あなたがたがわたしのうちに、そしてわたしがあなたがたのうちにいることが、あなたがたに分かります。」（ヨハネ 14:20）。
 - 「わたしの父はその人を愛し、わたしたちはその人のところに来て、その人とともに住みます」（ヨハネ 14:23）→ キリストが信者のところに来て、信者とともに住むようになる、と言われた。
 - このことを、27節でパウロは、「栄光の望み」と呼んでいる。
- (3) 奥義の対象は、ここでは異邦人である。27節の「あなたがた」は、異邦人である。あらためて言うが、この手紙は異邦人に焦点をあてている。そして、この奥義は、異邦人に向けてパウロによって宣べ伝えられ、異邦人信者がそれを受け取る、それによって、「この奥義が異邦人の間でどれほど栄光に富んだものであるか」を、「聖徒たち」すなわちユダヤ人信者たちが知ることになる。
4. このキリスト宣べ伝える コロ 1:28~29 「私たちはこのキリストを宣べ伝え、あらゆる知恵をもって、すべての人を諭し、すべての人を教えています。すべての人を、キリストにあって成熟した者として立たせるためです。このために、私は自分のうちに力強く働くキリストの力によって、労苦しながら奮闘しています。」
- (1) パウロが目指す目標を述べる。
- ① パウロの目標は、「このキリストを宣べ伝える」ことである。
 - ② 「このキリスト」とは、すべての信者たちの中に住んでおられる、内住のキリストである。
 - ③ メシア内住の奥義を宣べ伝えること、それがパウロの宣教目標である。
- (2) パウロは、その宣教を、自分のうちに働くキリストの力によって行うと言っている。
- (3) メシア内住の奥義を知ると信者はどうなるか、「キリストにあって成熟した者として立つ」、すなわち霊的に成長する。

5. **栄光の望み** コロサイ人への手紙全体を通して、パウロは、27節の「栄光の望み」について扱っていて、5つのことを述べている。
- (1) 2:1~7 霊的に成長する
- ① 2節の「神の奥義であるキリストを知るようになる」とは、メシア内住の奥義を知って霊的に成長するということである。
 - ② 7節では、霊的成長について述べている。「キリストのうちに根ざし、建てられ、教えられたとおりに信仰を堅くし、あふれるばかりに感謝しなさい」。霊的成長は、栄光の望みの5つのことのうち、その第一である。
- (2) 2:9~10 キリストにあって満たされる
- ① メシアの中には、神の第二位格なるお方のすべてが、「形をとって」すなわち肉体をまとって宿っておられる。メシアは、神であり人であるお方である。人としてのメシアは、今、天におられる。
 - ② メシアは神であられるので、神として遍在（どこにでも存在できる）のお方である。メシアの霊は、今、信者たちの中に住んでくださる。
 - ③ その結果、信者たちはメシアにあって満たされたものとなる。これは、栄光の望みの第二である。
- (3) 3:3 信者のいのちはキリストとともに神のうちに隠されている
- ① 信者たちはすでに死んでいる（その意味は、2:11~12）。それゆえ、信者たちのいのちは、キリストと共に神の中に隠されている。
 - ② かつて奥義は、神の中に隠されていたが、今、明らかになった。同じように、今は信者たちのいのちは神の中に隠されているが、将来、信者たちが栄化され、栄光のからだを受けて復活することは定まっている。
- (4) 3:4 キリストとともに栄光のうちに地上に帰る
- ① キリストが、すなわち信者たちのいのちであるお方が、（再臨のときに）現れるであろう。そのとき、信者たちもまた、キリストと共に、栄光のうちに現れるであろう。
 - ② パウロは、信者たちの栄光が現される時はいつかということについて明らかにしている。それは信者たちが再臨のメシアと共に地上に帰るときである。そのとき、信者たちはこの世に対して栄光をもって現されるであろう。
- (5) 3:11 キリストがすべてである
- ① 栄光の望みが最終的に到達するゴールは、次のことばである。「キリストがすべてであり、（そしてキリストが）すべてのうちにおられる」